

## 5 都市の基盤——人間環境としての自然と都市

2003/2/15

- 1 「環境」の意味と風土 生物が本源的に備えている遺伝的要素ではなく、生物の外側にあつて、その生命の維持、生活の状況、種の保全に影響を与えるものの総体。最も基本的に関わる環境としての「自然」。人間が意識的に受け止めるの「風土」。風土の相違が異なる文化を生む。(モンスーン、牧場、砂漠) 和辻
  - 1) 雨量、気温、湿度 高温多湿地帯、乾燥地帯、暴風雨
  - 2) 天文 シーズン(四季、乾季/雨季)、日光量、晴天日、風力
  - 3) 地形、水形、標高 山、川、海、丘、湖、谷、湿地、高原
  - 4) 地質、土壌 沃土、荒地、砂漠、岩石、鉱物資源
  - 5) 植生、動植物 森林、ステップ、草原、動物、果樹、バクテリア
- 2 自然に手を加えていった生物
  - 1) 環境に全く手を加えない生物 環境順応、適応、移動
  - 2) 本能として環境を改変し造り出す生物 蜂、蟻、キツツキ、ビーバー
  - 3) 自然に手を加え改変してゆく生物 人間
- 3 人間の自然認識
  - 1) 荘厳な自然(人間を超える) 朝日、夕日、大洋、月、星、偉大な山、壮大な樹木
  - 2) 脅威として 災害、(洪水、暴風雨、地震、竜巻、津波、旱魃)
  - 3) 生活の宝庫として(恩恵) 水、植物、動物(食料、薬、建築資材、生活用品)
  - 4) 資源利用対象として 井戸、用水路、溜池、鉱物の採掘、加工
- 4 都市をつくることの影響——人工環境としての都市 j
  - 1) 資源の収奪と汚染——水、鉱物、森林 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、砂漠化
  - 2) 自然地形の変造——地形、植生、景観、建築物、構造物
  - 4) 自然性の排除——土壌、コンクリート、金属、ガラス、風、香り
- 5 環境としての都市への認識とその意味
  - ①生物としての人間 ②宇宙の中の人間 ③環境を変造利用する責任者
  - ①バックミンスター・フラー「宇宙船地球号」、②レイチェル・カーソン「沈黙の春」、③浅田孝「環境開発」
  - 1) 相互関連するトータルな存在 過度利用反省(加工、変造、収奪、生態系破壊)
  - 2) 地域ごとの問題 画一化の否定
  - 3) 地球規模の環境認識 CO<sub>2</sub> フロンガス 砂漠化 環境ホルモン 病原菌
- 6 環境計画の主体としての人間 人間の住むに値する環境  
都市環境=自然環境+人工環境(代表としての都市)+社会環境(意識、制度)
  - 1) 有限環境の認識と循環型社会——宇宙船地球号
  - 2) 過大エネルギーの抑制、自然エネルギー利用
  - 3) 有害物、破壊物の制御
  - 4) 人間同士の付き合い方、価値観の共有と実践